カトリック大名町教会ニュース

DAIMYOMACHI CATHOLIC CHURCH NEWSLETTER

1

〔ミサ時間〕主日ミサ:(土)19時／(日) 7時・9時30分／英語ミサ(日)16時
〔ホームページ〕http://church.jp/catholic-daimyoumachi/
〒810-0041　福岡市中央区大名2-7-7　〔巡〕能古島カトリック教会　ミサ(土)18時
TEL:092-741-3687　Fax:741-5107　〒819-0012　西区能古弁当 1621-12
発行責任者:杉原寛信神父

福岡教区年間テーマ：信じる喜びから　伝える喜びへ

大名町教会年間テーマ：全ての人に対してキリストの光でありなさい！
Be the light of Christ to everyone.

ご　案　内

1月1日（金）：神の母 聖マリア 世界平和の日
1月10日（日）：成人式のお祝い
1月18日（月）～25日（聖パウロの回心）：キリスト教一致祈祷週間
1月24日（日）：神のことばの主日
（年間第三主日を「神のことばの主日」と名付け、「神のことばを祝い、学び、広めることにささげる」。また、キリスト教一致祈祷週間とも重なり、「わたしたちがユダヤ教を信じる人々との絆を深め、キリスト者の一致のために祈るように励まされる」よう、エキュメニカルな意味を深めるものです。）
1月31日（日）：世界こども助け合いの日（献金日）・所定の袋が有り

2021年元旦：神の母聖マリア 世界平和の日

2020年クリスマスミサYouTubeで配信

勉強会

船津　亮太　神父
- 入門講座（木曜日）10時／19時
- 聖書の分ち合い 14時：どなたでも参加可

◇コロナ禍でのミサについて

不安から懸念を抱く方がおられます。尤もなことです。日本の司教団のガイドラインを確認し、福岡教区のカトリック医師の方々からも意見を伺い、「大名町教会」の対応は、ふさわしいとのことです。今後もし、行政から緊急事態宣言が発令されたなら、必要に応じて教区として対応することになります。今後も一人ひとりの自覚と対策の徹底をよろしくお願いいたします。

ゆるしの秘蹟：希望者は、個別に司祭に依頼してください。

赤えんぴつの線

時々、これまでファイルしてきた切り抜きを見る。20年位前の新聞の切り抜き。社名はわからない。内容は以下のようなこと。

佐賀県のある地方の町おこしに取り組むグループが、文学賞を創設し、ハガキ1枚に巣立ちに関するエピソードを織り込む趣向。

抗がん剤投与で毛髪が抜けた父親からは次のようなはがきが届いた。『頭洗ってやるよ』と妻に代わって高三の息子。顔は笑っているが、息子の目は真っ赤である。『大人になったなあ。自分がいなくても大丈夫だ』。私はあわててタオルで顔を覆った」

引用紹介した部分、赤えんぴつで線を引いている。心に残ったから。

幼子イエスに辿り着いた羊飼いや東方の博士たち。その時の人生のページに、赤えんぴつで、絶対に消えない燃えるような力強い線を引いたに違いない。毎年、繰り返し、赤えんぴつで引かれた線の箇所（場面）を見せてもらっている。見飽きない。

2021年、私もかけがえのないイエスとの出会いを、信仰の赤えんぴつで線を引きたい。しかし真に望むのは、イエスから、私の行ないに赤えんぴつで線を引いてもらうこと。

カトリック大名町教会
主任司祭　ペトロ　杉原　寛信

アベイヤ司教様の呼びかけに応えて、大名町教会のまとめ。

大名町では、アベイヤ司教様の呼びかけに対して、最終的に１０８の声をいただいた。皆さんの協力に感謝。以下のようにまとめました。

＊「何を特に大事にすべきか?」

①小さくされた人々、外国人信徒への愛の行ない。
→弱い人々の側に身を置かれたイエスに倣い、助けが必要な人々（外国人・移住者・生活困窮者・心身の苦しみある人）への奉仕の実践。

②子どもの信仰教育、青少年司牧と召命。
→教会共同体の希望であり、担い手である青少年の信仰教育に力を注ぎ、若者たちの発想を活かし、その活動が発揮できるよう支援する。また若者の中から司祭・修道者の召命が生まれる環境作りの必要あり。

③コミュニケーションを通しての交わりと一致（信徒間・信徒と司祭・司祭間・司祭と司教・小教区間）。
→教会共同体の特徴は交わりと一致（各家庭内・信徒間・信徒と司祭・司祭間・司教と司祭・小教区間）。交わりを深めるために、互いに誠実に尊敬をもち、対話をもって向き合い聴き合う。その姿こそが宣教活動を促進させるのでは。

＊「そのために何が必要か?」

①開かれた教会として、キリストの愛の伝達の工夫と社会に向き合った実践。
→個人・共同体として小さな方々に寄り添う。ボランティア活動。教会の教えや取り組みについて、現代社会の要請に応えた広報活動。諸宗教を含め、地域社会への貢献を通しての関わり。

②青年活動や子どもの信仰教育を大切にし、それぞれに与えられた召命（司祭・修道者・信徒）の具体的深め。
→家庭の信仰教育、教会学校（カリキュラム・リーダー育成）の充実。青年の発信を大切に聴き、活動の場の確保と提供。「福岡カトリック神学院」の維持努力。司祭・修道者・信徒が自分の召命を誠実に生き、生涯養成（研修会・講演会・講座）の必要と充実を図る。

③共同体における奉仕を実践し、理解と思いやりをもって交わりを深める。
→様々な大切さ。
→祈り（特にミサ）／イエスならどのようにされるかと真剣に考える／振り返りと前向きな姿勢のもとに行う教会奉仕（個人・グループ）／信徒のための相談窓口や教会から離れている人への声かけ／求道者へのアシストと受洗者へのフォロー／教会の世代交代を受け入れる勇気等。

コロナ禍での教会学校

２０２０年度の教会学校では、２月１日の堅信式が終わったころから、新型コロナの流行により、教会での活動が制約されることになり、クラスの授業が難しくなりました。

例年３月の四旬節中に行われていた教会学校の黙想会も中止になり、それをカバーするために「十字架の道行き」の本を買って、各家庭に配りました。

「家庭で十字架の道行きのお祈りをするキッカケになった」とのお声をいただきました。

４月以降は、教会学校での活動ができない期間が続き、１年生の入学式もできませんでした。

予定していた教会での授業が出来ないので、家庭で信仰教育を進めていただくため、宣教司牧評議会に相談し、全国的に子どもの毎週の要理教育のテキストとして利用されている「こじか」を購入し、小学生の子どもがいる各家庭に郵送することにしました。「こじか」には大人向けの内容も含んでおり、家庭で活用されているようです。

例年７月に行われていた初聖体も11月22日に実施することが決まり、集中的に授業を行ないました。おかげで、初聖体式の当日は、子どもたちとその家族、教会共同体にとって大きな喜びとなりました。

９月の「長寿の祝い」には、長寿の方々にお贈りするカードを中高生クラスが企画・作成しました。コロナのために直接お渡しできないので、リーダーも協力して長寿の方全員に郵送しました。

一年生クラスは、保護者の強い希望もあり、秋頃から授業を開始しました。その他のクラスも主任神父様の了解をいただいて、感染対策をしながら月に一回くらいの頻度で授業を行うことになりました。

授業では、「こじか」を利用して、家庭と教会学校の授業に連続性を持たせるようにしています。

待降節が始まりました！

クリスマスには、コロナの感染防止のためクリスマスキャロルやクリスマスの喜びを分かち合いました。

子どもたちは、お菓子をいただく前に、誕生されたイエス様にお祝いのメッセージを贈りました。

授業ができない期間が長引く中で、２０２１年１月末に予定している堅信式を実施すべきかどうかを主任神父様に相談し、できるだけの準備をして堅信式を行うことになりました。

これを受けて、船津神父様を中心に二人のリーダーも力を合わせて、感染防止を徹底して授業を行い、堅信式に向けた準備を進めています。

教会学校の皆んなは、１月末の堅信式をとても楽しみにしています。

パウロ　久志　昇

新型コロナウイルス感染症 情況下でのクリスマスミサ

2020 年 12 月 24 日ご降誕祭夜半ミサ

2019 年の降誕祭夜半ミサ

指定席券が必要なご降誕祭ミサ

マスクが必要です

コロナ感染症情況下でのミサについて（アベイヤ司教）

① 聖堂内、最低２ｍの距離を保ち、人数制限を行う。同居家族は一緒に着席しても構いません。

② 高齢の方・基礎疾患のある方は、体調を見極め不安がある場合は、いのちを守ることを優先し自宅でお祈りください。教会での年齢制限は行いません。

③ 聖歌を「全員で一緒に歌う」ことを控えています。しかしオルガン独奏や、距離を開けての独唱、互いの距離を保てる場合は、聖歌隊などによる歌唱（広い空間がある場合のみ）を行っても結構です。

信仰者で良かった！

新型肺炎によって世の中は一変した。目に見えない恐怖との長い戦い、人々の日常生活は奪われた。ミサは中止となり自粛生活が始まった。

「巣ごもり」生活から脱皮する為に参加した勉強会の分かち合いで、「このような世の中だからこそ信仰者で良かったと思います」と発言したことが心に残っている。教会でミサに与れなくても毎日オンラインでミサに与れ、神父様方の説教や聖書百選、講話も拝聴することが出来、グループラインでのロザリオの祈りや分かち合いも体験することが出来た。

そんな中で、毎週、数回に分けて行うことになった主日のミサ、人数制限があり今までの様に信徒全員を迎えることができず、大きな声で聖歌を歌い賛美することも控える中で、参加できた信徒と共に、大名町教会共同体みんなの祈りになるようにと願いを込め奉仕させて頂いている。

ミサ毎にお願いしている朗読者や司会者も、温かいミサになるようにと惜しみなく協力してくださっている。

しかしミサは再開されたものの心から喜べなかった。施設に入っている方は外に出ることも出来ず、家族が入院していてもお見舞いにも行けず、基礎疾患がある人や高齢者は今もミサに与れない、自分がミサに与ることの申し訳なさも味わった。

信者には信仰という拠り所がある。しかし、心の拠り所が無い人たちはどの様に過ごしているのか？

苦難の中一人で悩み、誰にも相談することが出来ない人や働く場所が無い人達の不安は如何ばかりであろうか？

感染が広がる中で迎えた待降節、今年は異例のミサではあったが期待と喜びの主の降誕祭を共同体と共に過ごせたことが嬉しかった。

これからも続く降誕節、キリストが世の救い主であることを観想しミサに与れること、様々な人達の為に祈ること、典礼に携われることに大きな喜びを感じながら過ごしたい。

改めてコロナ禍の生活を見直し、今こそが神の恵みに感謝し力を頂ける時なのだと悟ることができた。

信仰があるからこそ、このように思えることが出来たのだと思う。

信仰者で本当に良かった。

典礼部　マリア　大石　和枝

大名町教会12月の現勢

【転入】（～教会から）
・無原罪の聖マリア　坂本　兼代（高宮教会）
・アグネス　長野　洋子（糸島教会）

【転出】（～教会へ）
・マリア　小林　優子
マリア　ベルナデッタ　小林　詠琳（東京教区麹町教会）

【幼児洗礼】（ご両親）
12月13日
・マリア　井手　千尋（井手宏二　祐子）

教会委員会

検討事項

１　アベイヤ司教様の呼びかけについて

・１０８名の返答あり。

評議会において分かち合いを行い、３点を大名町教会として提出。

『何を特に大事にすべきか』

『何が必要か』

①　小さくされた人々、外国人信徒への愛の行いが大事である。キリストの愛の伝達の工夫と社会に向き合った実践が必要。

②　子どもの信仰教育、青少年司牧と召命が大事である。それぞれに与えられた召命を深め、家庭や教会での信仰教育を大切にし、生涯養成の充実をはかる。

③　コミュニケーションを通しての交わりと一致が大事である。祈りの内に様々な立場で思いやりを持ち互いに大切にしあうことが必要。（詳細は２面）

２　クリスマスミサについて

①入場制限実施。12月20日まで申し込みを受付、各ミサの申込者に座席番号票を配布し、ミサ当日に番号票にて入場の確認を行った。

②ＹｏｕＴｕｂｅライブ配信実施した。

３　営繕特別献金について

①開始後３年経過。当初よりも献金納入鈍化。いまだ開始されていない方や未納の方に呼びかけ、依頼文書送付予定。

４　スープの会の活動について

①２月、３月の第２金曜日、スープの会の活動計画を予定していたが、コロナ禍のため中止とする。おにぎり配布（金曜日）は実施。

５　新成人の祝福式

①１月10日　10時30分のミサにおいて祝福。

６　堅信式について

①１月31日（日）、アベイヤ司教様司式のもと実施。コロナ禍のため、限られた時間の中で準備。共同体として、受堅者のために祈りましょう。

７　教会事務について

①教会規約の改正のもと、当事者と話し合い検討する。

８　歴代主任司祭の写真の掲示について

①福岡教区１００周年を控え、教区カテドラルの、歴代主任司祭の顔写真を、信徒会館に掲示する。

９　厨房の清掃について

①12月20日のミサ後、清掃を行った。

【報告事項】

１　動画配信機材の購入、その他について

①教区顧問会にて、動画配信機材の購入決定。大名町教会にて保管する。

②クリスマスミサ動画配信を行った。

終息を願い35回目のアンジェラス

会長のつぶやき

教えは身近なところに！

♪神よ　わたしに目を注ぎつよめてください　手をさしのべて♪

◆旅の途上、世界遺産、黒島教会をバックに描かれたカレンダーに『心の成長に限りなし』と書かれた言葉が目に留まった。その前の月には『机上の論より実地の汗』東大寺をバックに掲げられた言葉。

『見るだけ、聞くだけ、言うだけ』といわれるファリサイ派のような偽善者、『３だけ』。

我が家近くの、ある神社には大きな三体の石像。『見ざる、聞かざる、言わざる』の『３ざる』『３猿』都合の悪いことや余計なことには沈黙が大切。

イエス様は、いつの世も私たちに、『見なさい』『聞きなさい』『行いなさい』とそして『のべ伝えなさい』と語りかけてくださる。

神様が作られた全ての被造物、神様は無償で私たちの人生に、生活の上に与えてくださる。この川を、海を、山を、森を、この大気を、さらには十字架上のイエス様を通してすべての人々に愛を与えてくださる。『見なさい』『聞きなさい』とは神が作られた人や動物の悲鳴、叫び、汚染された海や山を大気みてその姿を見、声を聴くことでしょうか。それは十字架上のイエス様の姿を見ることでしょうか。だからこそ、心を開いて、人々にいつの世も『みこころを行うものとなりなさい』と導かれておられるのでしょうか。描かれた黒島教会、東大寺も人々に神仏の救いと愛を伝える場、声を響かせる場、その教えを、知り、学び行うことこそ『机上の論より実地の汗』そしてその教えを守り行うことこそ『心の成長に限りなし』ということでしょうか。旅の途上のカレンダーに描かれた絵の作者，書家は今こそ神仏の教えの大切さを伝えているようでした。コロナ禍、１年を通して大名町共同体が、幼子、み言葉に支えられながら、祈り、汗を流し、心の成長となりますように。

大名町教会信徒会長
フランシスコ・ザベリオ　濱崎公夫